



「復活されたキリストから受けたキリスト者の使命」

主任司祭 プリヨ・スサント

皆さん、復活祭おめでとうございませう。毎年わたしたちは復活祭を特別なお祭りとして祝います。キリストの復活こそわたしたちの信仰の出発点であり、この世の人生という旅の目的地です。

福音書は、「週の初めの日」に主イエスが復活されたと告げています。初代教会のキリスト者は、ユダヤ教の礼拝日である安息日に礼拝するために集まるのではなく、その次の日（使徒言行録二〇・六

一二など）、ローマ人は「太陽の日」と名づけた日（Sunday）に主イエスの復活の祭りを行なってきました。太陽の日がすぐに「主の日」、「主日」と変わりました。

初代教会、特に一世紀の教会は、降誕祭（クリスマス）や、聖母マリアの色々な祭日やほかの祭日などを祝いませんでした。初代教会のただひとつのお祭りは毎週の週の初めの日の主の復活祭のみでした。しばらくそのように続きましただとところ、キリスト信仰の中心的な出来事である主の復活を特別に特定の期間に祝う必要性が生まれました。これは、復活の主日のお祭り、あるいは、復活祭として定められ、すべての主日の母、教会のすべての祭日の母として、一年間のすべての日の母なる日として盛大に祝うようになりました。事実、復活祭こそ最も福音のお祭りなのです。現在に至るまで、キリスト信仰の中心である主の復活は全世界に盛大に祝われています。

四つの福音書はキリストの復活を詳しく語っています。それぞれ

の福音の出現物語には特徴がありますが、共通するところもあります。まず、復活されたキリストは、生前のイエス様とは異なった存在様式で弟子たちに現われました。マグダラのマリアに園丁の姿で（ヨハネによる福音）、エマオの二人の弟子に旅人として（ルカによる福音）、あるいは鍵のかかった部屋に現われました。彼らには、それは主イエスだとすぐわからなかったのです。たとえわかっても彼らに疑いが生じたりしていませんでした。つまり、復活は、あるいは、キリストの復活は、単なる死んだ人、死んだイエスが生き返ったということではなく、新たな形で人々と出会ったことを意味するのです。

にもかかわらず、弟子たちは今出会ったのはほかならぬ主イエスご自身であることを確信しました。生前の主イエスが語られたことばとなさった行動が復活されたキリストとの出会いによって弟子たちにとって福音、よいお知らせ、となつて、その出会いが自分を変えようとする出来事となりました。